

1. 調査目的等

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 学校ごとの指標

- 学校の平均正答率が県平均正答率より3ポイント以上上回る。

3. 指標にむけての取組

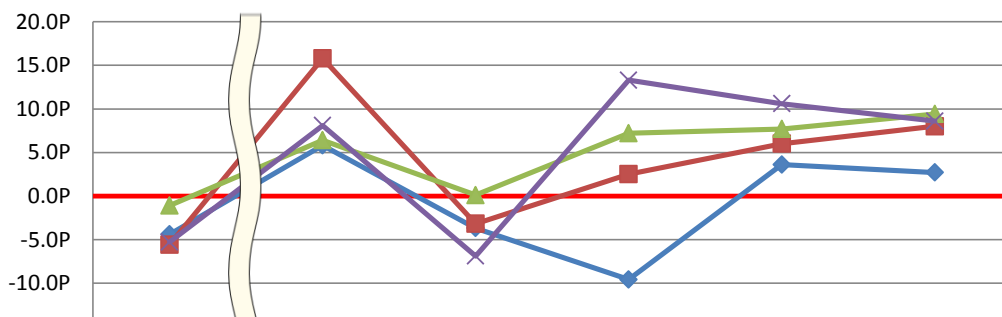
- 主体的な学習を目指す授業改善(子どもの課題追究、自力問題解決、自己決定の場づくりをし、学び方の積み上げ)
- ユニバーサルデザインの視点(シンプル、クリア、ビジュアル、シェア)を生かした授業づくり
- 1単位時間の工夫(ノート作り、学習スタイルの確立、振り返る活動の設定等)
- 「言語活動」「読書活動」「体験活動」(地域のひと・もの・ことの活用)を取り入れた教育活動

4. 調査結果

本年度の結果 (平均正答率に対して)

教科名	国語A	国語B	算数A	算数B
本校(A)	75.6	65.8	87.0	55.8
嘉麻市(B)	65.3	51.6	72.8	41.9
(A) - (B)	10.3	14.2	14.2	13.9
福岡県(C)	71.7	57.8	77.8	47.3
(A) - (C)	3.9	8.0	9.2	8.5
全国(D)	72.9	57.8	77.6	47.2
(A) - (D)	2.7	8.0	9.4	8.6

全国平均との差異



	22年実施	24年実施	25年実施	26年実施	27年実施	28年実施
◆ 国語A	-4.4P	5.8P	-3.7P	-9.6P	3.6P	2.7P
■ 国語B	-5.6P	15.8P	-3.2P	2.5P	6.0P	8.0P
▲ 算数A	-1.1P	6.4P	0.1P	7.2P	7.7P	9.4P
✕ 算数B	-5.3P	8.1P	-6.9P	13.3P	10.6P	8.6P

5. 各学校における分析

- ・国語A・B、算数A・Bすべての教科で、県平均より3ポイント以上回ることができた。
- ・国語Aでは、「ローマ字を書くこと」「ローマ字を読むこと」に課題が見られた。
- ・算数Aでは、「基準量と比較量の関係を正しく捉えること」に課題が見られた。
- ・国語Bでは、「図表やグラフから分かったことを書くこと」に課題が見られた。
- ・算数Bでは、「式の意味や数値の意味を解釈し、説明を記述すること」に課題が見られた。

6. 各学校における今後の取組

- ・全教科で、自分の考えを書いて整理する場面をつくる。
- ・算数科で、式や数値の意味を説明させる活動や図表やグラフから必要な情報を取り出したりする活動を充実させる。
- ・宿題に低正答率の内容を取り入れ、定期的に定着度をチェックする。(目標:正答率100%)
- ・県から配付された補充問題集フォローアップシートを積極的に活用する。
- ・正答率の低かった問題の趣旨、改善策、既習学年などの共有化を図り、教員の意識・指導力の向上に努める。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、以下の事項について支援する。
 - ・校内研修における授業参観指導を実施する。
 - ・学力向上推進員による講師及び若年層の教員を対象とした授業改善指導を継続的に実施する。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「学力補充」を推進する。そのために、以下の事項について支援する。
 - ・全職員による補充の時間を充実させるための教材の選定や指導方法について指導助言する。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、以下の事項について支援する。
 - ・「家庭学習のすすめ」を活用した指導を徹底させるとともに、「家庭学習のすすめ」を児童・生徒の全家庭に配布し、家庭への啓発を行う。